

鎮西

レゾリュート・ドラゴン25

西部方面隊は令和7年9月11日(木)から同月25日(木)までの間、令和7年度米海兵隊との実動訓練(レゾリュート・ドラゴン25)を実施しました。

本訓練は、島嶼防衛作戦における陸自の領域横断作戦(CDO)と米海兵隊の機動展開前進基地作戦(EABO)を踏まえ、作戦レベルと戦術レベルにおける連携要領の具体化を図るために実施する共同訓練であり、九州・沖縄県を主体に全国各地で実施され、陸上自衛隊と米海兵隊との国内における最大規模の実動訓練となりました。

9月11日(木)、キャンプ・コートニーでの訓練開始式をはじめとして、12SSMやNMEISISが参加した統合共同対艦戦闘、島嶼防衛作戦、陸自火炮とHIMARSや対戦車ヘリコプターによる実弾射撃、兵站・衛生訓練といった多様な訓練を実施し、日米の連携強化及び共同対処能力の向上を図るとともに、日米間の団結をより強固なものとなりました。

また、本訓練の実施にあたり、九州、沖縄等の地元自治体等の関係部外機関や住民の方々にご理解・ご協力を賜りましたことに、深く感謝申し上げます。



訓練開始式での両指揮官



共同整備訓練



共同衛生訓練



120mm迫撃砲弾薬の装填



20式5.6mm小銃射撃



共同飛行訓練(米軍機に対する燃料補給)



オスプレイ(米)・P-8(米)・オスプレイ(日)



日米間の調整



訓練終了式(集合写真)



日米共同記者会見(石垣駐屯地)



C-2輸送機(空自)から卸下したMADIS



通訳支援(予備自衛官)



方面殉職隊員慰霊碑に献花する鳥海総監(左)



義烈空挺隊慰霊碑に献花する鳥海総監(手前)



西部方面総監(鳥海 誠司 陸将)は令和7年9月30日(火)、最先任上級曹長(阿世賀准陸尉)とともに、健軍駐屯地内の方面殉職隊員慰霊碑及び義烈空挺隊慰霊碑に献花し、殉職された隊員及び義烈空挺隊の英霊に対し、哀悼の誠を捧げるとともに、引き続き、全ての隊務における安全を固く誓いました。

なお、この慰霊は今後月例にて行われます。

総監・方面最先任による月例慰霊・安全祈願



資料館見学(久留米)



装備品研修(相浦)



イージス艦「こんごう」見学(佐世保)

オピニオン・リーダー 部隊研修

西部方面隊は、令和7年7月1日(火)から3日(木)までの間、福岡・佐賀・長崎地区において、オピニオン・リーダー等部隊研修を実施しました。

竹松・大村・相浦・久留米の各駐屯地、佐賀地本及び海自佐世保基地の研修や隊員との懇談を通じて、部隊の現状等について理解を深めていただきました。

佐賀駐屯地開設

西部方面総監(荒井 正芳 陸将)は、令和7年7月9日(水)、佐賀駐屯地(輸送航空隊長兼ねて佐賀駐屯地司令 青山 佳史 1等陸佐)の開設に伴い開設式を行いました。

また、9月7日(日)には、駐屯地の隊員約280人をはじめ、中谷元防衛大臣(当時)や金子容三政務官、佐賀県の山口祥義県知事等のご臨席のもと、佐賀駐屯地開設記念式典が行われました。

佐賀駐屯地は、九州・沖縄地域の防衛のため、そして地域のためにその役割を果たしていきます。



移駐1機目のV-22オスプレイ



V-22オスプレイ移駐完了



開設記念式典における防衛大臣訓示



駐屯地看板除幕

西部方面隊はホームページや各SNSで各種活動状況を発信しています。下記QRコードからアクセスできますので、ぜひご覧ください。



第四師団

お問い合わせ先
福岡駐屯地
第4師団広報室
092-591-1020

令和7年度第2次師団訓練検閲 (第4後方支援連隊・福岡)

第4師団は、令和7年8月28日(木)から9月2日(火)までの間、日出生台演習場において、第4後方支援連隊に対し、令和7年度第2次師団訓練検閲を実施しました。

本訓練検閲は、領域横断作戦環境下、高烈度の脅威下における指揮官の状況判断及び各種戦闘力の組織化を演練し、部隊の進歩向上を促すことを目的とし、第4後方支援連隊の「防衛における兵站支援活動」について評価判定しました。

演習場では、全隊員がバトラーを装着し、第一線と同様のリアルな戦場が模擬される中、部隊は敵の攻撃に対して適切に防護するとともに、夜間であっても暗視装置を活用し、昼間と同様の行動ができるように演練した成果を遺憾なく発揮して、師団の作戦における後方支援部隊として、師団の任務達成に寄与しました。

本訓練に参加した隊員達は「厳しい暑さが続く中、演習場全域に兵站支援施設を分散し、開設して移動も複数回実施し、敵を混乱させつつ支援業務を継続しました。また、ウクライナの戦訓等を踏まえた新たな戦い方を取り入れるため、不慣れな装備品も駆使しながら戦い抜きました。本訓練で実感したことは、どんな過酷な状況でも仲間がいれば乗り越えられるということです。これからも仲間を信じ日々努力して参ります」と述べました。

第4師団は、引き続きあらゆる機会を通じて練度の向上を図り、北部九州の防衛態勢の充実と抑止力の強化に努めてまいります。



傷病者の治療



移動準備中の隊員



優秀隊員の表彰



偽装中の隊員

第4音楽隊第49回定期演奏会

第4師団は、令和7年9月7日(日)、アクロス福岡シンフォニーホールにおいて、陸上自衛隊第4音楽隊第49回定期演奏会を実施しました。

本演奏会は、師団所在地域の皆様に対し、自衛隊に対する親近感の醸成及び募集広報の促進を図ることを目的として実施しました。併せて演奏検閲を実施して、師団として設定した定期演奏会のテーマに基づく楽曲選定及び演奏技量について評価判定しました。

陸上自衛隊西部方面音楽隊、航空自衛隊西部航空音楽隊及び海上自衛隊佐世保音楽隊の支援を受け、公演第一部では陸自の威容を感じさせる楽曲、公演第二部においては海外での自衛隊の活躍等を感じさせる楽曲でプログラムを構成し、第4音楽隊長 松田1尉の適切な演奏指揮に合わせた演奏技術によって、多数の来場者に感動を与えました。

演奏会にサクソフォン奏者として参加した隊員は「初めての定期演奏会で演奏検閲ということもあり、今までの以上に強い気持ちをもって臨みました。たくさんの方のサポートを受け持ち、とても緊張しましたが、日々の練成の成果を十分に発揮し、音楽隊員としての誇りを胸に堂々と納得のいく演奏をすることができました。今後も技術を向上させ、聴いてくださる方々の心を動かすことができたいです」と述べました。また、来場された観客の皆様からは、「とても素敵な演奏でした」「感動しました。また来たいです」等のお言葉をいただきました。

第4師団はこれからも国民の皆様様に寄り添えるよう、日々訓練に邁進してまいります。



サクソフォン奏者



開演の様子



指揮する松田隊長



演奏する隊員

第八師団

お問い合わせ先
北熊本駐屯地
第8師団広報室
096-343-3141

第1回師団演習／第1回師団検閲 (第43普通科連隊・都城)

第8師団は、令和7年7月5日(土)から11日(金)までの間、日出生台演習場において、島しょ部における作戦及び各種能力の向上を図る目的で令和7年度第1回師団演習を実施しました。

第43普通科連隊(連隊長 石岡1佐)は、本演習で師団訓練検閲を受閲しました。

受閲に先立ち連隊長は、要望事項として「都城(どこんじょう)の魂を込めろ」と熱く述べ、隊員の士気を鼓舞しました。

梅雨明け後の猛暑の中で行われた演習では、4日(金)の作戦地域への機動展開以降、上級部隊の領域横断作戦の速やかな態勢確立に寄与するとともに、対上陸戦闘準備を整え、侵襲する敵を撃破するための態勢を確立しました。敵の侵襲が内陸部まで及ぶと、各級指揮官の適切な状況判断・有機的な指揮幕僚活動及び前線における激しい近接戦闘をもって、敵の行動を分断・破砕することが出来ました。

また、検閲に引き続き実施された総合戦闘射撃においては、各級指揮官、特に普通科中隊長の状況判断に基づく射撃指揮、諸職種部隊間の火力調整、情報と火力の連携等を演練し、統合された火力発揮能力の向上を図る等、大きな成果を収めることが出来ました。

第43普通科連隊は、これまで積み上げてきた練成成果を遺憾なく発揮し、与えられた任務を遂行するとともに、各種行動における任務遂行能力について評価を受け、じ後の隊務運営の資を得ることが出来ました。



連隊指揮所



中隊命令下達



総合戦闘射撃



CDO部隊防護

第8飛行隊との共同訓練 (第8偵察隊・北熊本)

第8師団は、令和7年8月25日(月)、高遊原分屯地において、多用途ヘリコプターUH-160JAに対する偵察用オートパイロットの搭載・卸訓練を実施しました。第8偵察隊(隊長・岩尾2佐)は、空中機動における即応展開の能力向上を図ることを目的として、第4偵察小隊の斥候班B要員を主に、未経験者3名を含む10名が訓練に参加し、搭載・卸下能力の練度向上を図りました。今回の訓練参加者は、空中機動における即応展開の重要性を再度認識し本訓練を終了しました。



積載板を使用して積載する隊員



相互連携しながら固定する隊員

米海兵隊との実動訓練 (第12普通科連隊・国分)

第8師団は、令和7年9月11日(木)から27日(土)までの間、日出生台演習場において、令和7年度米海兵隊との実動演習(レゾリュート・ドラゴン25)に参加し、第12普通科連隊(連隊長 村山1佐)は師団訓練検閲受閲部隊として参加しました。

当初、共同戦闘射撃訓練において日米それぞれの射撃技術を確立し、昼夜間における射撃能力の向上を図るとともに、日米間の連携を強化することが出来ました。FTXにおいては、協同部隊及び米海兵隊と連携して、対上陸戦闘準備を推進しました。

対上陸戦闘においては、情報・障害・火力を組織化して、機動的な部隊運用による流動的な戦闘と縦深にわたる強靱な防衛戦闘を繰り広げるとともに、米海兵隊と共同して侵襲する敵を撃破し、連隊に与えられた任務を完了することが出来ました。

米海兵隊とともに勇猛果敢に戦い抜き任務を完了した第12普通科連隊は、本訓練で得た成果・教訓を糧に、更なる日米共同の実効性向上と抑止力・対処力の強化に邁進してまいります。



共同戦闘射撃



米海兵隊の仲間たちと

第十五旅団

お問い合わせ先
那覇駐屯地
第15旅団広報・渉外班
098-857-1155

旅団長初度視察

第15旅団長泉陸将補は、令和7年8月5日(火)以降、指揮下部隊等に対する初度視察を行いました。
視察では、慰霊碑参拝、部隊長からの状況報告受等を行った上で、部隊の活動現場、施設、隊員の生活勤務環境の実視や隊員との懇談を行いました。部隊の態勢や生活勤務環境の実況を踏まえ、隊員が快適に過ごせ、安心して任務にまい進できる環境を構築すべく努力する決意を示しました。



格納庫視察(第15ヘリ隊)



慰霊碑「黒鷹の勇士」参拝(宮古島駐屯地)



演奏練度状況の視察(第15音楽隊)



生活勤務環境の視察(第51普通科連隊)

災害派遣活動

第15旅団は、令和7年7月29日(火)から同年8月3日(日)までの7日間、大東諸島において災害派遣活動を行いました。
記録的な大雨となった台風8号は、沖縄県島尻郡北大東村に床上浸水及び道路冠水等の大きな被害をもたらしました。
旅団は、第15ヘリコプター隊のLR-2により、人員及び資器材を輸送するとともに、現地において排水ポンプによる排水作業を行いました。
第15旅団は、何時いかなる時も沖縄県民の皆様にご安心と安全をお届けするために全力を尽くしてまいります。



排水ポンプへの給油作業中の隊員



隊員による水位の減少状況の確認

第28回日米ジョイントコンサート

第15旅団は、令和7年8月31日(日)、沖縄コンベンションセンター(宜野湾市)において、第15音楽隊と米海兵隊第3海兵機動展開部隊音楽隊との合同による、「第28回日米ジョイントコンサート」を行いました。
当日は、ほぼ満席となるほどの多数の方々にご来場いただきました。
各音楽隊からの演奏に引き続き、合同演奏では日米一体となって世代を超えて楽しめる名曲の数々と、沖縄由来の楽曲が披露され、会場から沢山の笑顔と拍手を頂きました。



第2部オープニングでの日米合奏



アンコールに応える日米音楽隊



笑顔と拍手で包まれた会場



日米のパート合奏

方面直轄部隊

令和7年度第2次団訓練検閲 (第5施設団・小郡)

第5施設団は、令和7年7月21日(月)から25日(金)までの間、小郡駐屯地、飯塚駐屯地、航空自衛隊芦屋基地及び宝満川において、団訓練検閲を実施しました。
本検閲では、第103施設器材隊及び第305タンク車両中隊に対し各種任務に即応できる態勢を確認しました。
浮橋の架設や道路の補修等により、部隊の円滑な交通を確保するとともに、ミサイル等で被害を受けた滑走路を重機等を用いて迅速に補修し、航空機運用の早期再開を図りました。
また、駐屯地内における不法侵入者を制圧・獲捕する一連の対処行動や駐屯地上空を違法に飛行しているドローンへの対処要領等を確認し、警備能力の向上を図りました。

第5施設団は、西部方面隊における施設科職種の骨幹部隊として、平素から有事まで幅広い任務に即応できる態勢を日々強化しています。



不法侵入者対処中の隊員



滑走路被害復旧中の隊員



浮橋を渡る車両



道路補修中の車両

部外者の航空機体験搭乗 (九州補給処・目達原)

令和7年8月30日(土)、目達原駐屯地において、部外者の航空機体験搭乗を実施しました。
この体験搭乗は、募集対象者や駐屯地協力者に対し航空機体験搭乗を通じて自衛隊及び駐屯地の活動等に対し理解を深めて頂くもので、西部方面ヘリコプター隊の協力のもと、募集対象者、協力団体やモニター(防衛・駐屯地)の計26名の方々に駐屯地周辺の上空を楽しみつつ陸上自衛隊への理解を深めていただきました。
体験搭乗に参加した駐屯地モニターの方は、「今回のヘリコプター体験搭乗は、普段の生活ではなかなか体験できない貴重なものでした。駐屯地モニターとして参加したので色々な質問をさせてもらいましたが、対応していただいた隊員の方々は懇切丁寧に、そしてにこやかにどんな質問にも答えてくださるのが本当に凄いと感じました」と述べられていました。



ヘリコプターに搭乗する参加者



ヘリコプターを見学する参加者

令和7年度陸曹候補生課程 履修前教育(九州補給処・目達原)

九州補給処は、令和7年7月9日(火)から7月18日(金)までの間、目達原駐屯地、鳥栖分屯地及び高良台演習場において、陸曹候補生履修前教育を実施しました。
本教育は、陸曹候補生に指定された入校予定者2名に対し、平素の補給処業務の中では実施する機会が少ない訓練指導法や野外訓練などを実施して、陸曹候補生に必要な実員指揮能力の向上等を図るために実施しました。
今回の教育に参加した隊員は、「久しぶりに実施する戦闘訓練などには苦戦しましたが、懇切丁寧に指導して頂いた教官や助教のおかげで陸曹候補生課程入校に必要な知識や技能を概ね修得することができました。この教育の成果を活かして、陸曹候補生課程入校に臨みます」と述べ、本教育を通じて陸曹候補生課程入校に向けた自信の付与と意識付けをすることが出来ました。



砂盤を使った戦闘予行



戦闘訓練



処長訓話

令和7年度国内における米海兵隊との 実動訓練 (西部方面航空隊・高遊原)

西部方面航空隊は、令和7年9月11日(木)から9月25日(木)までの間、令和7年度米海兵隊との実動訓練(レゾリュート・ドラゴン25)に参加し、伊江島、日出生台演習場等において日米共同作戦における戦闘・戦闘支援、燃料弾薬再補給要領、患者後送、共同管制等を演練しました。

特に、脅威下における航空輸送では、速度の異なるチルト・ローター機と回転翼機を使用し、戦闘ヘリによる掩護要領について綿密に調整し、共同での輸送要領について具体化を図りました。

また、伊江島における共同ヘリコプター火力戦闘では酷暑の中、細部にわたり具体的な調整を実施し、一件の不安もなく整齊、円滑に訓練を終了することができました。

引き続き、各種事態対処能力の向上に努めてまいります。



弾薬輸送



AH-64 着陸



日米共同による航空機への燃料補給

米海兵隊との共同兵站に関する 実動訓練 (西部方面後方支援隊)

西部方面後方支援隊は、令和7年度米海兵隊との実動訓練(レゾリュート・ドラゴン25)に参加しました。

隊は、米海兵隊との共同兵站に係わる指揮幕僚活動、続いて実動訓練を実施しました。

日米共同荷役訓練においては、港湾等の生地を活用した補給品の荷役訓練を実施し、受領から保管までの一連の流れについて綿密な共同調整に基づき演練し、その成果について共有しました。

補給品の空中投下訓練においては、離島に対する空中投下を想定し、日米の各種補給品を共同で梱包する等、相互連携要領の向上を図りました。

本訓練等を通じ、日米相互の信頼関係をより強固なものとする
ことができました。



日米共同荷役訓練①



日米共同荷役訓練②



日米共同空中投下訓練 (梱包)

パワーアドベンチャー in福岡! (福岡地本)

福岡地本(本部長 久田1佐)は、令和7年7月23日(水)、地本主催の「パワーアドベンチャー in福岡」を実施して陸上自衛隊への理解促進と魅力を発信しました。

これは学生の夏休み期間に合わせて自衛隊の「実情」「魅力」「親しみやすさ」を多くの方に体感していただく「陸海空自衛隊サマー・フレンドシップキャンペーン(通称サマキャン)」の一環として行われ、福岡駐屯地司令官藤原将補佐、陸上自衛隊の概要説明、職場見学、装備品展示及び体験試乗、体験喫食並びに若年隊員との懇談等多くの内容を盛り込んだイベントで、募集対象者及び保護者等54名が参加しました。

参加者からは「自衛隊のきついイメージが変わりました」「色々な職種があることが分かりました」「処遇改善が図られていることがわかりました」「女性自衛官の生の声が聞けて良かったです」等の多くの意見をいただきました。

福岡地本は、引き続き人的基盤の確保のため一丸となって、人材獲得に邁進してまいります。

小郡駐屯地業務隊(隊長 足達1佐)は、令和7年4月21日(月)から23日(水)及び6月11日(水)から20日(金)の間、桜谷射撃場において自隊施工により排水設備の工事を実施しました。

本工事は、射場内への雨水、土砂等の流入を防ぎ、安定した射撃訓練環境を確保することを目的としています。桜谷射撃場は、高台から降雨による流水等が監視の確保が難しく、高台から降雨による流水等が監視の確保が難しく、高台の頂上部付近から監視の手前までの位置に排水管を設置し、流水が直接射撃場に流れ込むことがないよう処置を実施しました。

引き続き、所要の整備を実施して良好な訓練環境を維持・向上してまいります。

桜谷射撃場排水整備 (小郡駐屯地業務隊)

配管運搬状況

配管運搬状況

配管運搬・接続固定の様子

流末部のコンクリート打設作業状況



配管運搬状況



配管運搬状況



配管運搬・接続固定の様子



流末部のコンクリート打設作業状況



装備品展示の様子



若手隊員との懇談



体験試乗にワクワクがとまらない!



装備品見学に興味津々



若手隊員との懇談



体験喫食における配膳の様子

温か家族

沖繩地方協力本部 東江1尉
長男 東江1士

令和7年4月6日(日)、陸上自衛隊国分駐屯地において、一般曹候補生課程の入隊式が行われました。

入隊式に参列した私は、長男の新たな門出を目に焼き付け、その様子を家族に伝えるとともに、自分の進むべき道を自ら選択した息子を誇りに感じていきます。思い返せば、長男には中学校卒業後の高校進学の際にも陸上長距離(駅伝)に取り組むため、自宅がある沖繩本島南部ではなく北部に所在する学校を選択し、3年間の寮生活を決心した過去がありました。

長男が人生の岐路に立った時のこの決心は、38年前の私に重なるものがあります。小学校から取り組んできた野球を、強豪校と呼ばれる高校で続ける選択をした時、高校卒業後の進路を「社会(人)の役に立つ仕事に就きたい」との思いで陸上自衛隊への入隊を志願した時のことです。

社会(人)の役に立つために過ごしてきた陸上自衛官としての立場も残すところ2年半となった今、同じ道を志す長男には、「国民の安心・安全を守る自衛隊(官)の存在意義やその価値」について、私なりの熱い想いを伝えていきたいと思えます。

長男の弟2人には、その道を歩んできた父、これからその道を歩んでいく兄貴の背中を見て、「自分の人生は自分で切り開いていくもの」であることを感じ取ってもらえるよう、今後も互いに成長していきたいと思えます。



温か家族

沖繩地方協力本部 森本3曹
ご家族の皆さん

令和7年5月1日(木)我が家に新たな命が誕生した。

二卵性の男の子と女の子で、家族にとって2回目の子育てとなる。出産に伴い、私は約2か月間の育児休業を取得し、家族とともに新しい生活をスタートさせた。

この期間、双子育児の大変さはもちろんのこと、家族との絆や時間の大切さを改めて実感した。

双子育児は、寝不足や忙しさの中で、予想以上の手間や心配りが求められるため、1人子育て以上に大変だ。しかし、その一方で、家族みんなが協力し合いながら成長していく喜びも大きい。日々の小さな幸せや、子供達の笑顔に癒され、家族の絆が一層深まることを実感した。

しかし、育児休業を取得する男性隊員はまだ少なく、家庭と仕事の両立は難しい側面もある。

それでも、周囲の理解を図ること、家庭と勤務のバランスをとりながら子育てに取り組むことは可能だ。家族を支えるためには、自衛官としての責任と家庭との両立を考え、職場や社会の環境を整えることも重要だ。家庭と仕事のバランスをうまく取ることも、家庭の幸せや子供達の将来とつても大切なことだと思える。

今後も、家族の絆を深めながら、仕事と家庭の両立を目指していきたいと思えます。

